

10年前の大発見!!

今や常識!?

3~4月、花粉が大量発生!!

花粉ジミを取る決め手は

“70℃のお湯をかける”または“夏まで待つ”

～実録・スギ花粉のシミが消える連続顕微鏡写真～



3月中旬ごろから「花粉」が舞っているようです。今は薬が発達したので、昔よりはひどくないかもしれませんが、花粉症の気の毒な人たちが涙を流して、くしゃみをしています。また、花粉は自動車の塗装の上に乗ると、「花粉ジミ」という独特のシミになって、洗剤で車を洗っても頑固でまったく取れません。昔は、これを取るためにみんな大変苦労をしていました。しかしある時、花粉ジミが「70℃のお湯」で見事に取れることが分かりました。むしろお湯をかけなくても、夏になれば自然にボンネット上が70℃になって、花粉ジミはいつの間にか消えてしまいます。この大発見は、この10年で一般的にも普及し、今や常識になりつつあります。お湯をかけて強制的に取る人もいれば、そのまましておいて夏の暑さで自然に取れるのを待つ人もいます。10年前の苦労は今、嘘のように解決しているのです。これはちょうど10年前に書かれた「花粉ジミ解決の発見」、「車の花粉ジミ」が見事に消えることを発見した時の話です。

スギ花粉にはペクチンという物質が含まれていて、花粉が大量に乗った車のボンネットなどが、洗車で花粉をキレイに洗い流しても、どうしても取れない「シミ」を残すことがある。これは万能、超強力かつ安全な「爆白」でも取れない珍しいシミなのだ。

しかし、このシミが「お湯」をかければ、いとも簡単に取れることが判明した。お湯をかけてコンパウンドでこするとか、研磨するとか、そんなのではなく、単にお湯をかければ取れるという不思議な現象で、ただお湯は70℃くらいのかかなり熱いお湯であることが必要なのだそう。早速、この方法をキーパーラポ足立店と、鳴海店でやってみたら見事に取れた。鳴海店の店長が写真を撮って送ってくれた。

お湯をかける前。シミが一面についている。水銀灯の回りに細かいシミがはっきりと見える。



70℃くらいの熱いお湯をかけたら、それだけで跡形もなく消えている。かけたお湯を拭いてもいない。お湯をかけたただけだ。



これは面白い!そこで我がアイ・タック技研技術開発研究所が動いた。八王子から更に武蔵五日市に研究員が行き、山の中に入った。山の中には、花粉の雄花の房がフサフサになっている杉の木がいっぱい(花粉症の皆さんには下手なオカルトよりも怖い絵かもしれない。ごめんなさい)。



山ほど採集してきたスギ花粉の房。このビニール袋が二袋ある。



……花粉の房のてんこ盛り。



これを黒いテスト用塗装板の上に並べて、水を浸すが花粉は出てこない。

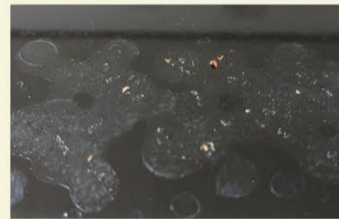


そこで花粉の房を包丁で切り刻んだら、花粉がいっぱい出てきた。

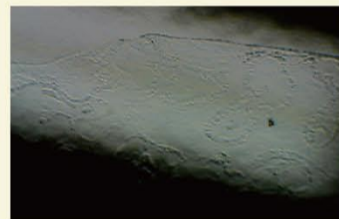


しばらく置いて、花粉房を取り除いたら、早速花粉が塗装に何かいたずら始めたよう

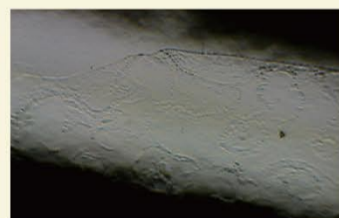
だ。明らかにシミになっている。



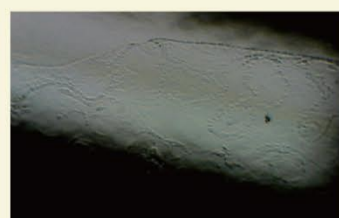
塗装面上に残った花粉をきれいに取り除き、×30のマイクロSCOPE(低倍率顕微鏡)で撮ったら、塗装の表面がクレーター状態になっている。これがシミに見えていたのだ。これはどんな洗剤でこすっても、コンパウンドで削っても取れない。白い帯は、蛍光灯をうまく照明に使ったもの。画面左の黒い点は塗装の微小なキズ。



このクレーターが出来た塗装の表面を「ヘアードライヤー」で温める。現在、表面温度45℃。クレーターがところもち浅くなってきている。

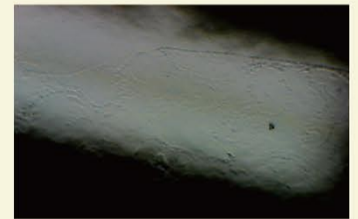


現在、60℃。まだわずかだが表面が平らになってきた。

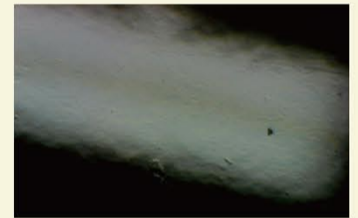


現在、70℃になってから30秒後。明らか

に表面が平らになってきている。塗装の一番上の写真と見比べると違いがはっきりする。



現在、70℃になってから2分後。もうクレーターがほとんど消えてしまった。



ヘアードライヤーをはずして、自然に冷えるのを待った1時間後、完全にクレーターが無くなって、シミがどこかに消えてしまった。



最後に、花粉症が恐怖の杉の花粉の房。あるいは塗装のシミの素。



塗装のシミは70℃で温めれば、無くなってしまふのは解ったが、花粉症はどうなのだろう。まさか人間を70度に温めるわけには行かないだろうから、本当にお気の毒です(悪い冗談でした<m(_)_m>)。

※実験ではヘアードライヤーを使用していますが、「お湯」でなければいけません。「ヘアードライヤー」や「ヒートガン」を使うとすぐに熱くなりすぎて塗装を傷めてしまいます。

花粉ジミを「熱いお湯」で消す方法

花粉が付いたまま放っておくと、頑固な花粉のシミ跡ができます。花粉のシミ跡は熱いお湯(70℃くらい)をかけ続けてボディが熱くなると消えてなくなります。

※もしくは夏まで待って、気温が高くなると自然に消えます。



花粉の“ベトベト”は「内窓クリーナー(アルコール)」で拭き取れます。

内窓クリーナーには、アルコール成分が含まれています。そのアルコール成分が花粉のベトベトを抑える効果があり、スカッと拭き取り易くなります。

※EXキーパー、ECOタイヤ施工車を除く。

